保健医療

多職種連携研修等による顔の見える関係づくり（各市、地区医師会等）

各市や地区医師会が中心となり、切れ目ない医療提供体制の構築に向け、医師・看護師・ケアマネジャー等在宅療養を支える様々な職種が参加する研修会を開催し、円滑な連携を推進しています。

病院を会場にした研修会を開催し、在宅ケアスタッフが病院の機能の理解を深めたり、ワールドカフェ方式※で様々な職種と意見交換し、課題の共有や役割の理解を深めるなど、医療・介護関係者の顔の見える関係構築が進んでいます。

※ワールドカフェ方式：カフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマについて対話を行う会議形式。メンバーの組み合わせを変えながら話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる。

看取りへの取組　　（小平市）

小平市では、在宅医療介護連携推進協議会において「人生の最終段階～看取りに対応するために」をテーマにワールドカフェ方式による話し合いを行い、その後「小平で安心して、いきて、いく」をテーマに人生の最終段階における看取りを支えるために多職種連携研修や市民向けセミナー等の取組を進めています。

また、民間団体やNPO法人においても、「人生の最終段階をどう迎えますか」をテーマに在宅での看取りを支える医師や肉親を看取った家族がシンポジストとなり、市民公開シンポジウム（白梅学園大学小平学・まちづくり研究所主催）や、少人数の住民がミニ講座やグループワークを通して「住み慣れたところで安心して生きること、死ぬことを考える」勉強会（ケアタウン小平主催）など、終末期や在宅での看取りの理解を深める取組が行われています。

「きよせメディケアｎｅｔ創設」　　（清瀬市）

清瀬市では地域包括ケアシステムを構築するに当たり「医療と介護の連携」が重要課題であると考えました。平成 26（2014）年よりネットワークの構築に向け、専門的かつ実務的な意見交換を行いました。

市が中心となり、市民が多数通院する市内外の大規模病院の地域連携室や介護支援のスタッフ、行政職員等に働きかけ、ワールドカフェ方式で意見交換を続けました。そうした中、医療機関・介護関係者がそれぞれ入退院時、よりスムーズに連携を図りたいという希望があることがわかり、お互いが使いやすいツールが必要との意見がまとまりました。

まずは入院時のシートを作成することとなり、その結果「ケアマネジャーからの地域連携情報シート」が完成しました。運用試行を経て、現在では北多摩北部保健医療圏で活用されています。

糖尿病医療連携の取組　（地区医師会、地区歯科医師会、各医療機関）

都では、都内全域を視野に、予防から治療までの一貫した糖尿病対策を推進し、都民の誰もが身近な地域で、症状に応じた適切な治療を受けられる医療連携体制の構築を推進しています。糖尿病地域連携の登録医療機関は、「東京都糖尿病医療連携ツール」を活用しながら、「かかりつけ医」「専門医」「かかりつけ眼科医・歯科医等」のいずれか又は複数の立場で、症状に応じた適切な医療連携を行い、患者さん一人ひとりに合った療養指導を行っています。

当圏域においても、糖尿病ネットワーク委員会が設置され、患者の症状に応じた適切な医療機関の紹介・逆紹介（返送）や、医療介護従事者向け研修会、都民向け公開講座などが開催されています。